

岡山労働局発表
令和8年4月27日

岡山労働局 労働基準部 健康安全課
担当 健康安全課長 田淵英二
産業安全専門官 熊谷智貴
TEL 086-225-2013(直通)

令和7年 岡山県内の労働災害件数が確定

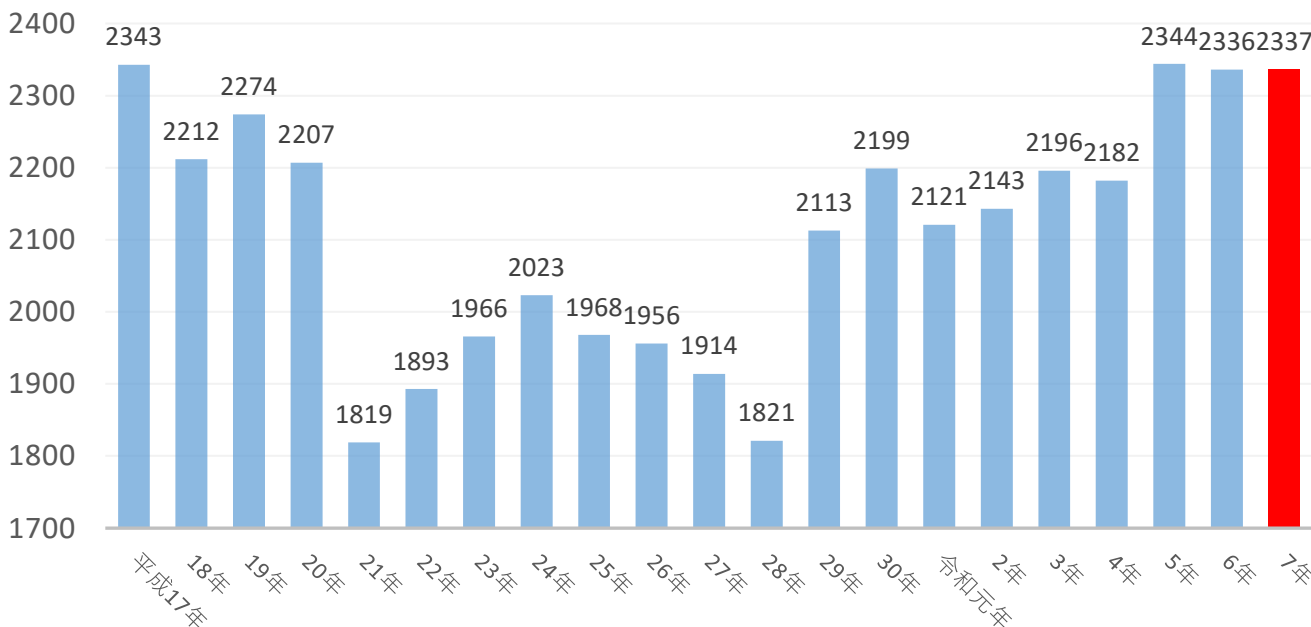
ポイント

- ▶ 死傷災害は3年連続で2,300件超が続く
- ▶ 死亡災害は18名で、前年より5名増加
- ▶ 「建設業」「商業」で災害増加が顕著
- ▶ 行動災害（転倒・腰痛等）が40%を超える
- ▶ 高齢者の被災が30%を超える

岡山労働局（局長：森實久美子）は、令和7年（1月～12月）に岡山県内で発生した労働災害（確定値）を取りまとめました。

	令和7年	令和6年	増減数
死傷災害（休業4日以上）	2,337件	2,336件	+1件
（内、死亡災害）	（18件）	（13件）	（+5件）

※新型コロナウイルス感染症り患による労働災害を除く



令和7年の労働災害の動向と岡山労働局の今後の取り組み

<増加傾向の原因>

●令和7年の労働災害（休業4日以上）は2,337件（前年比1件増）となり、3年連続で2,300件を超えることとなりました。2,300件超は平成17年以來となります。

●労働災害発生件数が高水準で推移している原因としては、

- ・人手不足や人材の流動化からくる技術等の伝承不足
- ・労働者の高年齢化
- ・外国人労働者の労働災害増加

等、複合的な要因があると考えられます。

●業種別で見ますと、製造業や保健衛生業では減少している一方、建設業や商業において増加しています。

特に、建設業での「はさまれ・巻き込まれ」災害（16件増）、運輸交通業での「墜落・転落」災害（16件増）、商業での「転倒」災害（15件増）の増加が目立ちます。

●事故の型別で見ますと、「転倒」と「動作の反動・無理な動作（腰痛）」のいわゆる『行動災害』が全体の4割を超えており、近年、高水準で推移しています。これは岡山県のみならず全国的に同様の傾向がみられます。

この主な原因としては、労働者の高年齢化があります。

●外国人労働者の労働災害も増加傾向にあり、

令和5年90件、令和6年103件、令和7年120件

であり、120件のうち経験期間1年未満が36件（30%）、3年未満は89件（74.2%）となっています。

<今後の取組>

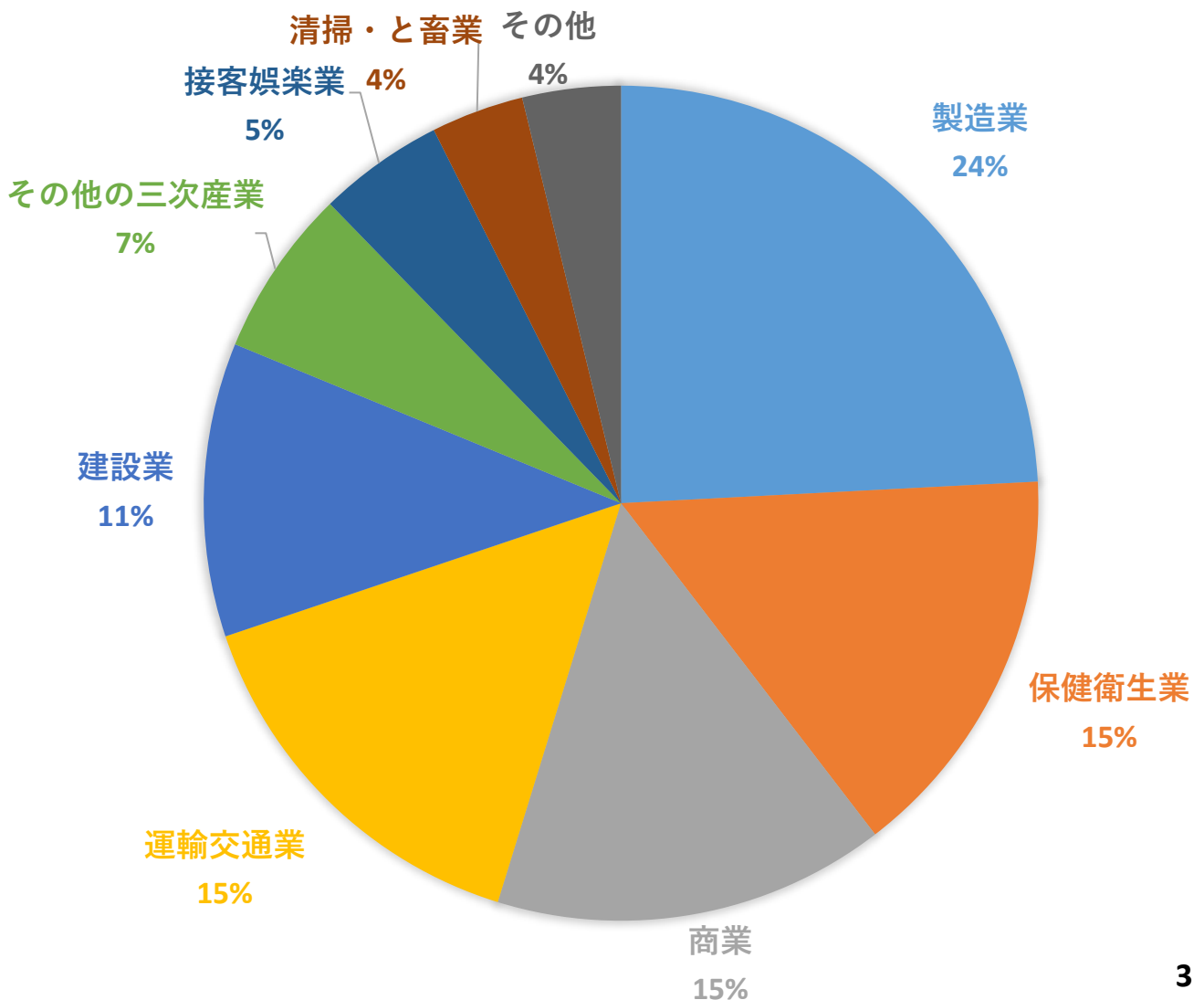
岡山労働局としては、以下の取組を行ってまいります。

- ① 建設業において、労働局長や各労働基準監督署によるパトロールの実施。
- ② 運輸交通業での墜落・転落災害防止指導。
- ③ 高年齢労働者による労働災害を減少させるため、エイジフレンドリー指針（R8.4.1施行）に基づき、特に小売、社会福祉施設等の業種における行動災害（転倒、腰痛）防止に係る指導啓発や補助金の活用促進。
- ④ 外国人労働者に対する雇入れ時教育徹底の指導。

主要業種別の労働災害件数

	令和7年	令和6年	増減数
製造業	565件	582件	▲17件
保健衛生業	360件	376件	▲16件
商業	355件	334件	+21件
運輸交通業	352件	346件	+6件
建設業	266件	240件	+26件
接客娯楽業	114件	106件	+8件

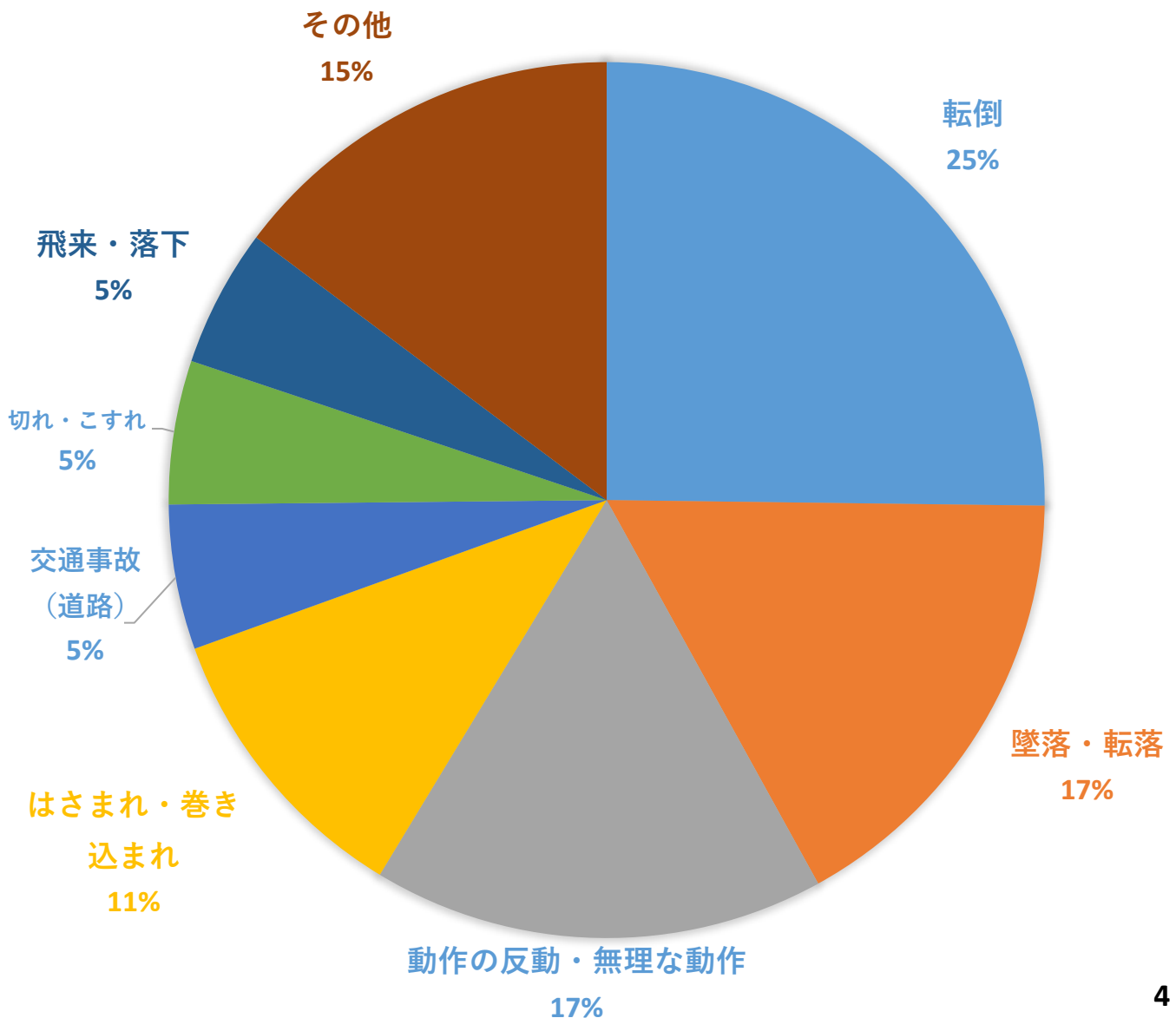
※新型コロナウイルス感染症り患による労働災害を除く



事故の型別の労働災害件数

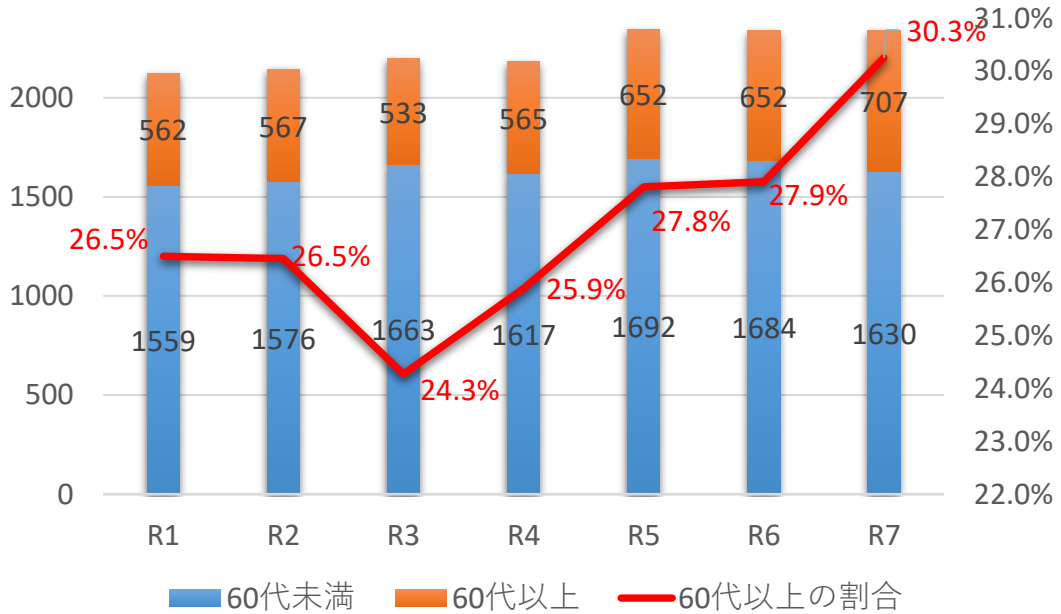
	令和7年	令和6年	増減数
転倒	589件	543件	+46件
墜落・転落	392件	360件	+32件
動作の反動・無理な動作	390件	385件	+5件
はさまれ・巻き込まれ	253件	257件	▲4件
交通事故(道路)	125件	126件	▲1件
切れ・こすれ	124件	138件	▲14件

※新型コロナウイルス感染症り患による労働災害を除く



高年齢労働者の労働災害発生状況(岡山県)

全業種における60代以上の割合



行動災害（転倒・腰痛等）における60代以上の割合

